

NARO Research Prize Special I

GM農産物検知技術の国際標準化とそれに用いる 認証標準物質の生産

GMO検知国際標準化研究グループ

橘田和美、古井 聡、真野潤一、高畠令王奈
(食品総合研究所)

研究の目的・背景等

遺伝子組換え(GM)農産物の食品表示における行政的な規制や食品製造業者の自主検査等における分析の信頼性確保のため、当研究所で開発した検知法を国際標準分析法とし、その分析の内部質管理に利用できる認証標準物質(CRM)の生産・頒布を行う。

研究の概要

開発した検知法は、試験室間共同試験による妥当性確認を経て、国際標準化機構(ISO)の規格ISO21570のAnnexに収載され、国際的な標準分析法として公表された。さらに、ISOガイド34:2000(JIS Q 0034:2001;標準物質生産者の能力に関する一般要求事項)およびISO/IEC 17025:2005(JIS Q 17025:2005)に基づくマネジメントシステムを構築して、標準物質生産者としての認定を得た。GMダイズあるいはトウモロコシを一定の濃度で含む国際的に通用するCRMを作製し、分析を行う検査機関や民間企業に対して頒布を行っている。



標準物質生産者認定証



異なる濃度のGMダイズを含む
CRM3本 1セット

